

日本建築学会北海道支部
2019 年度 通常総会

日時 2019 年 5 月 17 日 (金)
会場 北海道建設会館

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2019 年度総会議案

I 2018 年度事業報告

本資料に記載される「1.支部運営の諸会合の開催～10.建築関連団体との活動」(例年と同様) の事業を行った。

本年度は、西日本豪雨、大阪北部地震、台風直撃による広域被害など災害が多い一年であり、北海道でも 9 月 6 日に北海道胆振東部地震およびその後のブラックアウトなどが発生した。本支部では被害調査 WG を組織し、本部災害委員会などと協力して調査を行い、11 月 9 日に東京で被害報告会を開催（本部・支部共催）した。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2018 年 5 月 18 日

会場 北海道建設会館

出席正会員 42 名（委任状 12 通）

当支部地域在住正会員 840 名の 30 分の 1、28 名以上の出席により成立

2017 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2018 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

◆ 支部役員会

5 回開催(通信支部役員会含)

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2. 1 学術委員会（主査：岡本 浩一、委員数：14名、委員会開催数：4回）

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および特定課題研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究の推薦、建築文化週間事業企画および道内工業高校巡回講演会講師派遣について議論し決定した。また、北海道支部技術賞の募集および技術賞選考委員会の設置に基づいて表彰技術候補の選考を行なった。2018 年度の支部研究発表会において「技術パネル展示」を開催した。各活動の詳細は以下の通り。

(1) 研究補助金

・特定課題研究委員会

「なし」

・本部からの支部助成金による研究委員会

「寒中コンクリート新技術の動向調査」主査：濱 幸雄 君 2017-18 (継続)

・2019 年度特定課題研究

「北海道沿岸部に現存する戦争遺跡、ならびに関連資料に関わる調査研究」主査：西澤 岳夫 君
2019-2020

(2) 北海道支部技術賞選考部会

2018 年度支部技術賞は、下記 2 件の応募（応募順・技術名のみ記載）があった。

① 外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開発

② 300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み

上記の応募について、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に基づいて選考を実施し、表彰候補技術として2件を選定した（選定理由は支部技術賞の項目を参照）。

表彰技芸名—外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開発

表彰技芸名—300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み

(3)建築文化週間事業

2018年度 事業として以下の2つの催事を実施した。

・見学会「建築散歩 帯広の名建築を巡る」：歴史意匠専門委員会

2018年10月14日に実施、参加人数14名。旧双葉幼稚園園舎（重要文化財）、かじのビル、六花亭サロン、旧岩野商店、齋藤邸、久呂無木（旧横瀬邸）などを見学。

・「くしろ防災屋台村～地震時の我家のバーチャル体験」：都市防災専門委員会

2018年10月27日に釧路市こども遊学館にて実施、参加人数411名。

2019年度 建築文化週間企画

「石炭のまち三笠の足跡を巡る」歴史意匠専門委員会

「くしろ防災屋台村」都市防災専門委員会

(4)支部研究発表会 技術パネル展

2018年度の支部研究発表会（会場：道立総合研究機構建築研究本部）において技術パネル展を開催した。9団体から、構造、材料施工、環境工学、北方型住宅、歴史意匠などに関わる技術パネルの出展があった。会長講演の前にパネル発表の時間枠を設け盛会に終了した。

2018年度から、支部技術賞を受賞された個人/団体に、翌年度の支部研において技術パネル展への出展も研究発表同等と扱うこととしている。

(5)支部公式ウェブサイトのシステム・コンテンツ更新

2017年度に開始した次の取組みが実施された。支部ホームページ管理委員会と連携し、各専門委員会を構成する委員の名簿ならびに活動計画を掲載。掲載および更新の時期は、総会終了後。

(6)道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

・帯広工業高等学校建築科に、構造専門委員会 前田 憲太郎君（北海道科学大学）を派遣し、講演「地震と建物の安全性」（2019年2月21日）を実施した。参加者75名

・釧路工業高等学校建設科に、環境工学専門委員会 栗原 浩平君（釧路工業高等専門学校）を派遣し、講演「建築環境工学の役割」（2019年2月27日）を実施した。参加者71名

＜今後の予定：担当専門委員会＞

・2019年度：都市計画専門委員会（於：留萌）、北方系住宅専門委員会（於：苫小牧）

・2020年度：材料施工専門委員会、建築計画専門委員会

・2021年度：歴史意匠専門委員会、都市防災専門委員会

・2022年度：構造専門委員会、環境工学専門委員会

2. 2 専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会（主査：杉山 雅、委員数：23名、委員会開催数：3回、見学会1回）

2018年度は、専門委員会を4ヶ月に1回程度の割合で、計3回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会などの各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。現場見学会は、2018年12月4日（火）に「NHK新札幌放送会館新築工事現場」において実施し、19名の参加があった。また、2018年10月23日（火）に構造専門委員会と共同後援で「建築鋼構造フィールド・スタディ（室蘭）」を行った。

2017年度から2年間の予定で活動した特定課題研究委員会の「寒中コンクリート新技術調査委員会」は、今年度に計4回開催し、その成果の一部は「寒中コンクリートに関するアンケート調査結果（3編）」として、2018年6月23日に開催された北海道支部研究発表会（旭川）に於いて報

告した。

◆ 構造専門委員会（主査：飯場 正紀、委員数：20名、委員会開催数：2回）

委員会の主な活動は次の通りである。

1. 構成委員数 20名
2. 委員会開催数 2回（都市防災専門委員会と合同で開催）、6月23日、12月7日
幹事会開催数 1回、9月27日
3. 講演会（1回、10月31日）：佐分利 和宏氏（株式会社 竹中工務店）：「実設計を通じて構造設計者として考えたこと」
出席者：学会員10名、学部学生65名、大学院生8名、教員5名、合計88名
4. 現場見学会（2回）
 - 1) 「NHK新札幌放送会館現場」（都市防災専門委員会と共催）（9月19日）
参加者：学会員7名、学生14名、合計21名
 - 2) 「建築鋼構造フィールド・スタディ（北海道地区）－新日鐵住金（株）室蘭製鐵所および（株）日本製鋼所室蘭製作所の見学会－」（材料施工専門委員会と共同で後援）（10月23日）
参加者：学会員5名、学生35名、合計40名

◆ 環境工学専門委員会（主査：桑原 浩平、委員数：16名、委員会開催数：2回）

- 1) 第1回委員会（10/22、札幌市立大学サテライト、参加者9名）にて、北海学園大学の小柳秀光委員にスマートコミュニティの実証試験や建物への人工知能の活用状況に関して発表頂き、最新の研究動向を把握した。
- 2) 南幌町みどり野きた住まいのヴィレッジにて北方系住宅、建築計画委員会と共に見学会を開催した（10/14）。
- 3) 第13回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs'18）を開催した（3/6、札幌市立大学サテライト、発表32題、参加者約70名）。また櫻井百子氏（アトリエ momo）による特別講演も開催した。

◆ 建築計画専門委員会（主査：真境名達哉、委員数：11名、委員会開催数：2回）

構成委員数11名、委員会開催数2回。見学1回。公開研究会1回。本年度もこれまでの活動実績を踏まえつつ、公開研究会を最終成果とする勉強会・見学会を催した。今年度の公開研究会のテーマは「北海道における庁舎建築、その特性とゆくえを考える」で、70名もの参加があり、高い関心があることが分かった。次年度以降も、社会事象に沿ったテーマを取り上げたいと考えている。

◆ 都市計画専門委員会（主査：岡本 浩一、委員数：13名、委員会開催数：3回）

活動の内容：2016年度から継続している連続企画「わたしの職能」を引き続き開催した。2回の開催に計36名が参加した。面としての都市計画思考を踏まえつつも、点である建築や地域活動等を介して都市のあり方や関係性を見つめ、各委員の活躍するフィールドを介して多様な視点から考えてみることが、この企画の目的である。当専門委員会委員の全員が順に講師となり、業務や研究から得られた知見や問題意識あるいは実践例を題材に、若手から専門家まで広く情報や意見の交換を行ってきた。全12回にわたり開催し、延べ196名が参加した。参加者の所属内訳は、学生35名、行政40名、民間52名、委員69名（いずれも延人数）である。

◆ 歴史意匠専門委員会（主査：西澤 岳夫、委員数：16名、委員会開催数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を整え活動した。具体的には、まず建築文化週間事業として見学会「建築散歩—帯広の名建築を巡る」（10/14、参加者14名）を開催した。その他、三笠市からの委託研究を受け、旧住友赤平炭鉱事務所内において建築関連の資料調査を行った。

◆ 北方系住宅専門委員会（主査：立松 宏一、委員数：11名、委員会開催数：1回）

- 1) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会（2007年から継続的に実施、今年度で11回目）を住宅展示場「南幌町みどり野きた住まいのヴィレッジ」にて開催し、32名の参加を得た（建築計画専門委員会、環境工学専門委員会と共同開催）。また、見学前に座学を設けて、道の事業担当者、ヴィレッジアドバイザー、住宅の設計者からの説明を行った。
- 2) 委員会を開催し、住宅見学会の際のアンケートに基づく議論や、今後の委員会活動についての議論を実施した。

◆ 都市防災専門委員会（主査：麻里 哲広、委員数：16名、委員会開催数：2回、通信委員会開催数：6回）

都市防災専門委員会では、2018年9月6日（木）に発生した北海道胆振東部地震に対し、支部被害調査WGの一員として現地被害調査および調査速報会を行った。また、2018年10月27日（土）に釧路市で開催された第9回くしろ安心住まいフェア（主催：北海道釧路総合振興局）において建築文化週間事業「くしろ防災屋台村」を出展し、一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行った。

2. 3 特定課題研究委員会の実施

該当なし

2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

（2017年度より）

◆ 寒中コンクリート新技術調査研究委員会（主査：濱 幸雄、委員数：15名、委員会開催数：4回、幹事会：1回）

本委員会では、JASS5、寒中コンクリート工事施工指針・解説の改定に向け、現行指針の課題の抽出、取り込むべき新技術の有無等について、各種調査を行い、改定内容の検討を行った。

アンケート調査は、寒中施工計画、調合計画策定実態の把握、管理に着目した実態把握を目的とし、道内その他、寒中コンクリート工事が適用される東北6県、関東（茨城、栃木、群馬、長野、山梨）、北陸4県、近畿（滋賀、奈良県、京都府）の地域を対象にレディミクストコンクリート工場とゼネコン現場、管理部門について実施した。その結果、現行指針では養生計画の策定部分に課題があることが明らかとなった。また、新技術に関する情報収集を行い、仮設上屋の動向、加熱方法の新たな取り組みなどの情報を得た。

以上をふまえ、指針改定の方向性について検討し、とりまとめた。

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2018.6.15	平成30年度三笠市炭鉱遺産調査及び図面調査業務委託研究	歴史意匠専門委員会 (主査 西澤 岳夫)	三笠市

4. 支部研究発表会の実施（主査：岡崎太一郎、実行委員会委員数：16名、委員会開催数6回）

4. 1 開催要領

日本建築学会北海道支部 第91回研究発表会

日時：2018年6月23日（土）

場所：（地独）北海道立総合研究機構建築研究本部（北方建築総合研究所）

参加者数：約160名

4. 2 実行委員会委員

主査：岡崎太一郎（北海道大学）

幹事：戸松誠（北方建築総合研究所）

委員：

構造専門委員会 / 永井宏（室蘭工業大学），千葉隆弘（北海道科学大学）

材料施工専門委員会 / 足立裕介（北海学園大学），谷口円（北方建築総合研究所）

環境工学専門委員会 / 岸本嘉彦（室蘭工業大学），阿部佑平（北方建築総合研究所）

建築計画専門委員会 / 真境名達哉（室蘭工業大学），野村理恵（北海道大学）

都市計画専門委員会 / 片山めぐみ（札幌市立大学），岡本浩一（北海学園大学）

歴史意匠専門委員会 / 武田明純（室蘭工業大学），西澤岳夫（釧路工業高等専門学校）

都市防災専門委員会 / 麻里哲広（北海道大学），戸松誠（北方建築総合研究所）

北方系住宅専門委員会 / 真境名達哉（室蘭工業大学），立松宏一（北方建築総合研究所）

4. 3 実行委員会開催スケジュール

2017年12月末：建築雑誌会告入稿

2018年1月：建築雑誌会告

2018年2月3月：第1～3回実行委員会メール審議，論文投稿用HP作成

2018年3月9日：論文募集開始

2018年4月12日：論文投稿締切

2018年4月：第4～5回実行委員会メール審議，プロ編準備

2018年4月19日：第6回実行委員会【プログラム編成】

2018年4月22日：第7回実行委員会メール審議，プログラムの最終確認

2018年5月：プログラム校正

2018年6月初旬：CD発送

2018年6月21日：第8回実行委員会メール審議、当日の段取り確認

2018年6月24日：支部研究発表会

4. 4 研究発表会

論文題数：136編（A原稿：103編，B原稿：22編，C原稿：6編，D原稿：5編）

優秀講演奨励賞

構造：片桐優紀（室蘭工業大学），野々山優輔（名古屋大学）

環境：石垣祐里奈（北海道大学）

計画：木村早希（室蘭工業大学），大伏玄泰（北海道大学）

4. 5 特別企画

テーマ：信頼に応える建築界を目指して

プログラム

講演：古谷誠章（一般社団法人日本建築学会会長・早稲田大学理工学部創造理工学部建築学科教授）

挨拶：千歩修（北海道大学）

司会：福島明（北海道科学大学）

記録：岡本浩一（北海学園大学）

参加者数：約80名

4. 6 企業等パネル展示（主催：学術委員会）

2014年度（第87回）に構造専門委員会が実施した「技術パネル点」を、翌2015年度（第88回）以来、学術委員会が引き継いでいる。9つの団体・組織・個人から出展があり、9:30～16:30に1階アトリウムで展示会を実施し、16:00～16:30に順番に説明いただく時間会を設けた。休憩時間と説明会でのみ、展示への立会いをお願いした。

4. 7 懇親会

会場：ホテルWBF グランデ旭川 マルウンホール
会費：一般=5,000円、学生=2,500円
参加者数：85名（一般：42名、学生：43名）

5. 表彰

5. 1 北海道建築賞

（1） 北海道建築賞委員会（主査：山田 深、委員5名 委員会開催数3回現地審査3回）

本委員会は1975年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建てられた建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞・奨励賞に相応しい作品を選考しており、2018年度で43回目となった。選考においては、作品の有する「先進性」「規範性」「洗練度」の3つの視点を基本的な評価軸としている。なお、本委員会は例年7名で運営しているが、今年度は諸事情により欠員1名で活動を開始した。さらに委員が応募者でもある作品があったため、主査判断によって、当該委員は途中より委員会構成員から外れ全ての作品の選考に関わらないものとし、最終的な委員構成は5名となった。

今年度は、4月16日（月）の応募開始から10月26日（金）の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第43回北海道建築賞を実施した。

4月27日（金）：第1回委員会 審査方法・スケジュール等の確認、応募推薦作品の選定。

5月21日（月）：第2回委員会 応募8作品が審査対象作品となることを確認。書類審査によって現地審査対象作品として3作品を選定。

7月5日（木）：第1回現地審査 「東川小学校・地域交流センター」（東川町）

7月28日（土）：第2回現地審査 「訓子府町幼保連携認定こども園 わくわく園」（訓子府町）

7月29日（日）：第3回現地審査 「未来のまちに贈る家」（江別市）

8月8日（水）：第3回委員会 現地審査を踏まえて最終選考を行い、以下の結果となった。

・北海道建築賞 「東川小学校・地域交流センター」（小篠隆生君/北海道大学）

・北海道建築奨励賞 「訓子府町幼保連携認定こども園 わくわく園」（松谷悟詞君/（株）久米設計）

10月27日（金）：表彰式・受賞記念講演会および記念パネルディスカッション。北海道大学遠友学舎にて開催。建築文化週間の行事でもあり、一般市民も含め、学生、大学関係者、建築業界関係者など約70人が参加した。

審査員：

主査：山田 深

委員：赤坂 真一郎、海藤 裕司、佐藤 孝、福島 明

（2）受賞者

◆北海道建築賞 小篠 隆生（北海道大学）

作品名—「東川小学校・地域交流センター」の設計

◆北海道建築奨励賞 松谷 悟詞（株）久米設計

作品名—「訓子府町幼保連携認定こども園 わくわく園」の設計

（3）審査経緯

本年度の北海道建築賞委員会は、昨年度と同様の委員構成を予定していたが、1名の委員が急遽参加できないことになり6名の体制で行われた。第1回の委員会は4月27日に開催し、ここでは表彰規程や審査日程を確認した上で、応募作品に対する全体的な審査方法について審議した。続いて、「北海道建築作品発表会作品集2017」等の情報をもとに、今年度の

審査対象になり得るような注目すべき作品について議論した。ここではいくつかの作品が候補として挙がったが、自薦での応募の可能性もあることから、今年度は委員会からの応募推薦はしないこととした。

応募締切を経て開催された第2回委員会（5月21日開催）では、作品審査に関わる学会倫理規定と具体的な審査方法を確認した上で、以下の計8作品を今年度の審査対象とした。今回の応募数は近年ではとりわけ少ない数であった。なお、応募作品の中に委員が関与するものがあるため、日本建築学会の定める『3.3.20 論文・作品の発表の場におけるピアレビューに関する倫理規定』に則り、その委員は当該作品の審査時には退席し、選考には一切関わらないものとした。

応募作品および設計者（応募順）

- ① 東川小学校・地域交流センター（小篠隆生/北海道大学）
- ② 北海道大谷室蘭高等学校（大山政彦/（株）日本設計）
- ③ 温根内ビジターセンター（川上雅彦、宮越達也/北電総合設計（株））
- ④ 北一ミート本社工場（柏田淳/柏田淳建築設計事務所）
- ⑤ 「stair」さっぽろ西野二股整形外科（中井寿也/一級建築士事務所アトリエ TARO）
- ⑥ 訓子府町幼保連携認定こども園 わくわく園（松谷悟詞/（株）久米設計）
- ⑦ 未来のまちに贈る家（網野禎昭/法政大学デザイン工学部、奥村賢史、和知祐樹/（株）平成建設一級建築士事務所、宮田雄二郎/法政大学デザイン工学部）
- ⑧ House S（米田英美/ヨネタエミ建築スタジオ）

これらの応募作品に対し、今年度の北海道建築賞においても継続して「先進性」「規範性」「洗練度」の3項目を基本的な評価軸とすることを確認した上で、第一次審査として応募書類による現地審査対象の選考を行った。各応募書類を詳しく通覧し、各委員が個別評価を述べた後に、各作品について活発な議論が為された。その結果、現地審査対象作品として、①「東川小学校・地域交流センター」、⑥「訓子府町幼保連携認定こども園 わくわく園」、⑦「未来のまちに贈る家」の3作品を選定した。

現地審査は7月5日に①、7月28日に⑥、7月29日に⑦の日程で行った。現地においては、それぞれの作品を実際の使われ方や技術的処理など様々な視点から確認するとともに、設計者や施主側との質疑を通じて詳細を把握することができた。

第3回の委員会（8月8日開催）では、現地審査を行った3作品を対象として、最終選考を行った。今回は委員が応募者でもある作品があることから、主査判断によって、当該委員はこれ以降委員会構成員から外れ全ての作品の選考に関わらないものとし、残る5名の委員によって選考を行った。具体的な選考方法を再度確認した上で、まずは3作品それぞれについて各委員が評価とその論拠を述べた。この時点で高い評価を得られなかつた⑦「未来のまちに贈る家」については、賞の対象から外すこととした。続いて残りの2作品については、個別に多くの観点から検討がなされ、賞の決定に至るまでの議論は長時間に及んだ。最終的に北海道建築賞に①「東川小学校・地域交流センター」、北海道建築奨励賞に⑥「訓子府町幼保連携認定こども園 わくわく園」とすることを、5名の委員全ての同意のもとで決定した。

「東川小学校・地域交流センター」は、人口8千人ほどの東川町において、町全体の将来的な都市計画を睨みながら、小学校と学童保育を含めた地域交流センターを町の中心と位置付け、それらを運動公園とも一体のものとして計画したものである。小さな町とはいえ、都市計画をダイレクトに建築化するかのようなある種のスケールの大きさは近年では他に例を見ないものであり、明快で骨太な説得力とともに北海道の小都市ならではの贅沢さに満ちた学校建築のあり方を示している。またこれらの計画の一環として旧校舎をコンバージョンすることなども含め、町に対する設計者の継続した地道な関わり方においても本作品は良き先進例となっていると思われる。行政側の積極的なビジョンと多くの人々の協力無くしては成立不可能なプロジェクトであったと思われるが、これらをひとつの方向性に向けて実現化したことは、本賞に値する総合的に優れた成果であると認め北海道建築賞とするものである。

「訓子府町幼保連携認定こども園 わくわく園」は、元々独立してあった幼稚園と保育園とを統合し、隣接する子育て支援センターや役場などとも連携しながら町の中心を形成しようとするものである。約 50m四方の方形プランにおける中庭型の空間構成それ自体はオーソドックスなものであるともいえるが、町産材のカラマツ集成材によるフレーム型構造形式と乳幼児のための細部に至る肌理細かさとが齟齬なく同居している。特に回廊を含めた‘はだしの庭’廻りにおける幼児目線での様々な作り込みと気配りは、この建築を感覚的にも印象深いものにしている。審査においては遊戯室のスケールや外部との関わり方などについての指摘もあったが、構造・機能・ディテール・設備などがある水準を超えて全体が成立しており、設計者の熱意とともに完成度の高さを評価することができる。

現地審査を経て、残念ながら選外となった作品についても以下の通り審査での評価を簡潔に記す。

「未来のまちに贈る家」は、循環型資源の活用を目的としつつ、構造としてのみならず断熱性や調湿性など木材の能力を最大限に生かしながらその積極的な活用を図っていこうとする興味深い試みである。ここでは 150mm 角のトドマツ無垢材をビス留めによって集積することで屋根面および床面が構成されており、それらは構造であると同時に内部仕上げでもあり、断熱と調湿をも担っている。しかし経年による木材の歪みや割れに対する処方や、下部を RC としたこと、温熱環境的な設備計画などに疑問が残った。また、この構法ならではの新たな空間のあり方には、まだ開拓の余地があるように思われた。

(文責：山田 深)

(4) 審査講評

◆ 北海道建築賞 「東川小学校・地域交流センター」

東川町は、広大な農業風景が広がっている。開拓時から原野区画の基準となった基線が開拓道路となり、街路にもなった。農地区画は畦道により水田割された。新しい小学校敷地が、市街地と広大な農地の接点にあることから、教室・ワークスペース 2 学年分のユニット幅と水田割と同じ幅にしている。これを小学校のモジュールにすることで、開拓基線、水田割という地域の寸法が、建築に内在することになる。この場所に呼応する建築は、環境、まちづくりに展開する建築形式として評価できる。また、この地域の緩やかな土地の傾斜を受けた、小学校、地域交流センター、特定地区公園のグランドデザインをしている。校舎前の農業水路でも、流れに沿って登校する子供たちや道往く人の日常風景に水路のあるまちづくりデザインが感じられる。

校舎は平屋で、大地に置かれた伸びやかでリニアな建築である。平屋の小学校は、階によって学年を分断することも無く、長い廊下は見通しが効き、子供たちの動きに先生の目が届く。また、学年単位空間を雁行させることで、見え隠れするワークスペースと教室の関係がつくられている。ワークスペースはフレキシブルに考えられており、家具は利用する先生や児童の使い勝手に配慮した良質のデザインがされている。この上部は大きな気積のハイサイドライトで、学年単位の領域を開放的にしている。ハイサイドライトは北側に開き、陽射しによる室内の熱化を避け安定した熱環境となっている。窓からは、地域の景観要素であるキトウシ山や大雪山が遠くに見え、学校のモジュールにした水田割の田園風景が広がる。

設計者は、この小学校の基本計画を東川町のまちづくり計画に位置づけてきた。市街地とリンクした回遊性構想を持ち、旧東川小学校を文化芸術交流センターとした企画構想とリニューアル設計に尽力してきた。今回の東川小学校・地域交流センターは、コミュニティーキテクトならではの作品である。それは、まちづくりとランドスケープデザインを内在した建築であり、地域・場所から生まれる建築として普遍的な形式を導いている。

よって、ここに北海道建築賞を贈るものである。

(文責：佐藤 孝)

◆ 北海道建築奨励賞 「訓子府町幼保連携認定こども園 わくわく園」

役場や公民館が集まる訓子府町の中心地域に建てられた町立認定こども園である。既存の幼稚園と保育園に挟まれたグランドを敷地とし、新園舎完成後に旧施設を解体、そこを園庭・駐車場として整備する計画であったことから、新設の平屋園舎の配置や、正方形に近い平面形状は、ほぼ必然的に導かれたものだと思われる。このプロジェクトではそれを逆手に取り、管理上の都合で長い直線になりがちな幼稚園の平面計画をループ状にまとめ、行き止まりの無い回廊型園舎を実現している。ループの中心に設けられた裸足で遊べる中庭は、建物外周のダイナミックな園庭とは対照的に、こども目線のコンパクトなスケールで構成された特別な場所となっており、トリミングされたオホーツクブルーの空が、建物内の殆どの場から望めるよう設えられている。この中庭に面した回廊をはじめ、インテリア全体がこどもに寄り添った細やかな気遣いや工夫によってデザインされており、それが 2000 m²近い床面積を持つ施設に、住宅のような密度と安心感を与えている。

構造的には、外周の諸室群を 1.8mごとのリズミカルな門型フレームで構成し、それらを回廊部分の格子梁が繋ぐ、空間の役割と構造としての意味合いを重ねた明快な計画となっており、構造材のサイズや見え掛けかりの面積は、構造的合理性はもちろん、意匠的効果や、補助金獲得の為の条件をもクリアできる思慮深い選択がなされている。内部空間全体の視覚的繋がりを強めている構造部材および木製品の大半は、地場技術の活用、地域経済の発展に寄与すべく、現場から半径 25Km 圏内にある町有林や工場で伐採・製材・加工されたものであることも言添えておきたい。保護者や保育士など多くの町民が参加するワークショップ形式で進められたこのプロジェクトは、将来を担う子供たちへの期待や愛情など、地域住民の様々な思いが形になったものと言えるだろう。開園以来、同町への移住や U ターンが増え、現在は想定以上の園児数となっていることからも施設の充実度がうかがえる。内容の異なる多くの思いを受け止め、公共建築をこうした密度ある空間へ結晶させるには、設計者が抱く単なる計画論だけではない高い総合力と建築に対する熱い思いが必要だったに違いない。現地審査の最後に、実は設計者がこの町の出身であり、幼少時にこの園に通っていたと聞き、なるほど合点がいった。

(文責：赤坂 真一郎)

5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見、委員数：6名、委員会開催数：1回）

2018 年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部では金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 1 点を選定した。「短大・高専・専門学校」の部、「工業高校」の部とも、それぞれ金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 1 点を選出した。審査後、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主 査：菅原 秀見

委 員：遠藤謙一良、小倉 寛征、小西 彦仁、齊藤 文彦、中山 眞琴

(2) 受賞者

◆ 大学の部（応募作品数：13 点）

- ・金賞 安田 穂乃香：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — そして、暮らしが滲み出アウ。
- ・銀賞 浅野 樹：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
作品名 — 生命の緩衝帯～サロベツ湿原において動植物と接する建築～
- ・銅賞 竹下 生馬：北海道科学大学工学部建築学科
作品名 — 記憶に捧げる建築

◆ 短大・高専・専門学校の部 (応募作品数: 5 点)

- ・金賞 横塚 阜: 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — 環境共生住宅
- ・銀賞 高橋 伽奈: 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — うつろい
- ・銅賞 相馬 功希: 青山建築デザイン・医療事務専門学校建築学科
作品名 — 集う道産子
～札幌市中央区に建つ子どもの遊び場の提案～

◆ 工業高校の部 (応募作品数: 8 点)

- ・金賞 山本 隆生: 北海道苫小牧工業高等学校建築科
作品名 — Stream 183
溯上×再び故郷に人が集まる
- ・銀賞 木村 周斗: 北海道名寄産業高等学校建築システム科
後藤 光: 北海道名寄産業高等学校建築システム科
作品名 — やっぱり西條に集まる輪
- ・銅賞 黒沢 留奈: 北海道帯広工業高等学校建築科
作品名 — 地域をデザインした公共施設 —Patrie—

(3) 審査講評

◆大学の部

金賞・安田 穂乃香

観光地として多くの人が訪れる函館の街区は高齢化による空き地・空き家が多くなっている。その中の一街区を計画地とし、住民の合意を前提に空き地・空き家をパブリックスペースとして改修しました住宅の水廻りを含めた改修を加える事で街区の中に旅行者をはじめとした住人以外の人々が訪れ滞在できる住まいを“まち”に開く計画である。住民の生活を守りながら慎重な工夫を重ねる事で街区が活きた共同体として再生する計画は交通の発達や新しい働き方が予想される未来において人と人がゆるやかに繋がる計画に地域再生の高い可能性を感じる優れた作品であり、本年度の卒業設計の中で金賞に値する

(文責: 遠藤謙一良)

銀賞・浅野 樹

利尻礼文サロベツ国立公園内のサロベツ原野は、ラムサール条約にも登録された周氷河地形による渡り鳥にとっての楽園である。周辺の農地の影響による湿原の乾燥を遮水シートを用いて防ぐとともに、自然観察の場として、園路/ステージ/小屋/塔をフォリーのごとく配置し、湿原の保護への理解を深めるための施設の提案である。サロベツ湿原センターとの類似性、利尻山や周氷河地形の理解とそのデザインについては、更なる展開も期待された。しかしながら、その硬質で抑えられた色調による、緻密な表現と検討は、本年度の卒業設計の中で秀でており、銀賞とするものである。

(文責: 斎藤 文彦)

銅賞・竹下 生馬

マイケル・ケンナの美術館である。削りに削ったこの作品の図面を読み取ることは大変困難を極めた。審査員の能力を試す程にアイロニカルで、計算高い作品であろう事が読み解いていくうちに最初に感じた事である。複雑なのかシンプルなのかもわからないアプローチや全体構成。たった写真一枚だけの美術館はひっそりと静謐に半分地中に埋まっている。その姿は何とも言えない美しさを秘めている。光の入れ方や階段の扱いはとても力強く、写真の主人公の一本の樹のような掛けない意志をそこに感じる。

審査員の中にはこの作品に反論した者もいたが、私個人は金のレベルにあると信じている。

(文責：中山 眞琴)

◆ 短大・高専・専門学校の部

金賞・横塚 阜

この計画案は札幌円山地区の緑が多く茂、緩やかな斜面に計画された環境共生型の集合住宅である。昨今の社会状況や、エネルギー状況を読み解き、自然環境に馴染みながら、環境負荷を徹底的に削減するテクノロジーを導入することにより、地球に優しく、人々の暮らしの将来像までを視野に入れた計画である。

自然エネルギーの活用、生活排水や雨水の再利用、ゴミ処理の問題までと、徹底したこの計画案は社会性が高く評価される。建築を構成するフレームも時代の新陳代謝に対応しているなど、全てにおいてバランスよく計画された優秀な計画である。

(文責：小西 彦仁)

銀賞・高橋 伽奈

廃道となった小樽の海沿いの国道跡地に計画された散策道と4つの建築の提案である。作者の「変わるものと変わらないものを楽しめる道」という言葉が印象的である。その実現に向け、夕日や水平線、山の緑、波や潮位など様々な自然の変化を感じとれるよう、空間構成の操作、構造的な工夫をおこなっている点が高く評価された。また、力強い自然の景観と対比をなす白くシャープな建築のデザインも印象的であり、豊かな建築体験が期待される作品となっている

(文責：小倉 寛征)

銀賞・相馬 功希

子どもたちが体を動かして遊ぶことが減っている現状と、都心居住者が増えていることを背景に、都心部での子どもたちの居場所が提案された。ビルに挟まれた空地を活用し、丘のような屋外の遊び場の上に柔らかな曲線を持った屋内の遊び場が持ち上げられ、都市の中にオアシスがつくられている。ランダムに建てられた柱が、居場所に変化をもたらし、森に入り込んだ印象を与えている。都市の隙間にやさしさのある奥行きが創出され、新たな都市の魅力が感じられる作品として評価した。

(文責：菅原 秀見)

◆ 工業高校の部

金賞・山本 隆生

「鮭が戻ってくる」と「人々が苫小牧という地に戻ってくる」思いが重透してつくりあげた作品である。鮭が遡上する姿を建築のフォルムに変換している。その重なる平面と立体図は大変美しい。川をもっともっと利用する計画であればさらに良かったと思うが、それを除いても詩的で建築群のまとめ方は高校生とは思えないぐらいの力作である。曲線の使い方は至極であると言わざるを得ない。

(文責：中山 眞琴)

銀賞・木村 周斗、後藤 光

名寄の老舗デパートを改修する提案である。中心市街地に立地しながらも、ニーズの変化から若者の利用者が減ってきている現状に対し、名寄を愛する作者が建築の力を利用して問題解決したいという思いが強く感じられる作品である。課題の社会的背景を丁寧に調査・分析していること、その分析結果を踏まえて解決策を提案している点が高く評価された。さらに、解決策には時間帯別の利用イメージまで丁寧に描かれるなど具体的で現実的である点、将来の町のビジョンまでも提示している点も素晴らしい提案だと感じた。)

(文責：小倉 寛征)

銅賞・黒沢 留奈

ほのぼのとさせる計画である。ステージ、足湯、公民館、体育館、レストランその他の施設が広い敷地に散りばめられている。配置図を見ると建物のモチーフは葡萄であったりワイングラスやボトル等で構成されている。

なぜ葡萄関連のデザインかは不明であるが、楽しく設計に取り組んでいる様子と、最後まで計画が一貫しているところは関心に値する。平面計画にとどまらず、断面や立面にも表現され、荒削りな部分はあるものの秀作には間違いない。

(文責：小西 彦仁)

5. 3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2018年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

吉水 久乃・高橋 裕人：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
高見堂風花・岡田 彩：北海学園大学工学部建築学科
民野 志織・菊地 郁香：北海道科学大学空間創造学部建築学科
上條 彩乃・多田 真彩：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
白岩 麗・川原 琴：東海大学国際文化学部デザイン文化学科
中川 昌隆・小泉 雄也：星槎道都大学美術学部建築学科
鴻上 朝花・御家瀬 光：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科空間デザインコース
佐藤 舞・高津 綾乃：釧路工業高等専門学校建築学科
海野 裕也：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
河村 拓哉：北海道職業能力開発大学校建築科
新井美知留：北海道札幌工業高等学校建築科
土屋勇之介：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
松原小都里：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
木村 和暉：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
石田 侑也：北海道函館工業高等学校建築科
佐藤 春樹：北海道函館工業高等学校定時制建築科
笠谷 愛：北海道旭川工業高等学校建築科
川崎 尚斗：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
山下 龍生：北海道苫小牧工業高等学校建築科
小川 真輝：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
宮字 諒：北海道帯広工業高等学校建築科
市澤 辰博：北海道釧路工業高等学校建築科
木村 周斗：北海道名寄産業高等学校建築システム科
新井 尚也：北海道室蘭工業高等学校建築科
笛森亜久里：北海道留萌千望高等学校建築科
奥山 美優：北海道北見工業高等学校建設科

5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。

2018年度は、最も長期にわたり支部会員を継続された以下の1社の法人会員を表彰した。

大成建設株式会社札幌支店

5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：岡本 浩一、委員数：10名 委員会開催数2回）
選考委員：支部長、学術委員会委員長、学術委員会委員の計10名

(2) 受賞者（順不同）

◆北海道支部技術賞

株式会社 NTT ファシリティーズ

岩田 樹美

長尾 康嗣

千葉 陽祐

伊賀 信幸

矢作建設工業株式会社

上田 洋一

表彰技術名—外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修
技術の開発

◆北海道支部技術賞

山本亜耕建築設計事務所

山本 亜耕

有限会社タギ建築環境コンサルタント

サデギアン・タギ

株式会社丸稻武田建設

武田 司

飯田ウッドワークス株式会社

飯田 信男

株式会社丸三ホクシン建設

首藤 一弘

株式会社橋本・川島コーポレーション

村田 桂二

表彰技術名—300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み

（3）審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し、選考部会を計2回開催した。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記2件の内容について協議した。

応募された技術等の名称：「外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開発」と「300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み」（受付順）

募集要領の選考基準に定められる、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に基づき技術内容を把握した。応募書類にある技術内容について、必要に応じ該当する応募者に質問文書を送り、適宜、追加資料の提出を求めるとした。

第2回の技術賞選考部会では、提出のあった回答書および追加資料を併せて、技術内容について再度議論したうえ、投票により「外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開発」と「300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み」との2件をともに技術賞表彰候補とした。

＜寸評＞

●「外観デザインの一新と建物の長寿命化を実現する耐震補強と外壁改修の一体的改修技術の開

「発」は、今や欠かすことのできない重要な社会インフラのひとつである情報通信を司る建物において、その機能を継続しながら耐震性を高め長寿命化を実現しようとする技術である。加えて、当該建物は都心部に立地し代替用地の確保は難しいことから、敷地境界が近接する条件でのコンパクトな施工方法を開発するとともに、積雪地特有の着雪および落雪に対して融雪シート等のエネルギー消費に頼ることなく形態による解決策を提示し、さらには近隣の建物外観との調和を図ることにも配慮しながら目的を達成する取組みである。これらの技術的特徴や街並み景観的配慮は、「地域性・独自性」の点で高く評価された。

●「300mm 断熱住宅の一般化に向けた試み」は、おもに寒冷地の住まいにおいて発達し、近年では本州以南でも地球環境負荷低減の観点から注目を集める「断熱性能」のさらなる向上ならびに施工容易性の確保、一般住宅への普及を目指した技術開発である。開発場面では、地場の設計事務所、コンサルタント、建設事業者及び建具製造事業者の連携・協力を通じ、一般住宅向けに一般的の設計者、施工者が無理なく供給できる断熱工法を実現した。当該技術は室内環境改善、建築デザインの自由度向上、地域工務店の技術力活用等の観点から、寒冷地の住宅の一つの方向を提示しており、加えて、道内各地における10年余りの施工経験を通じて工法の改良やバリエーションの拡大を行ってきた実績も認められ、今後の普及にも期待が持てる。これらの取組み内容や普及の実績は、「継承性・継続性」の点で高く評価された。

後日、支部役員会にて、技術賞選考部会から技術賞表彰候補として報告し、審議の結果、2018年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

(文責：岡本 浩一)

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志、委員数：4名、実行委員数：14名、委員会開催数：5回）

2018年11月29日の発表会に向けて第38回北海道建築作品発表会委員会及び実行委員会が開催された。4名によって構成される北海道建築作品発表会委員会は1回開催され、メールによる会議を複数回行った。その後、実行委員10名が加わった実行委員会は4回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、各スケジュールの計画、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。発表会場は、例年北海道立近代美術館講堂にて開催した。

発表会当日は、第38回建築作品発表会作品集VOL-38を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2018に実行委員の赤坂真一郎氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」に山脇克彦氏が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

期日：2018年11月29日（木曜日）

会場：北海道立近代美術館講堂

発表作品数：29作品

38回目を迎える北海道建築作品発表会は、2018年11月29日（木曜日）に開催された。会場は、北海道立近代美術館講堂、参加者総数は約300人であった。1981年に第1回目をスタートさせたこの発表会は、回数を重ねるごとに発表の内容や議論の内容が厚みを増してきている。今年の発表会においても質の高い建築作品が多く発表された。この場は、発表する建築家を中心に建築関係者、建築学生、一般市民を巻き込みながら建築文化の向上に寄与してきたと言える。今回の作品発表会は、発表題数が29題であった。発表会の歴史においては平均的な数である。また、年々建築の用途が多様な拡がりを持ってきていることも追記できる。

今年の発表会のプログラムも例年通り三部構成で、1部と2部は各作品のスライドを交えた口頭発表、そして3部はフォーラムとして位置付け全体の作品を集約し意見交換を行った。このフォーラムは、作品発表会において特に重要な目的性を有しており、作品の規模や用途を越えた共

通点等を見出すことができる貴重な建築批評の場になっている。毎年このフォーラムがあることによって、全体を通した建築作品の動向が顕在化され、そして発表者とオーディエンスとの間に対話が生まれる。建築作品発表会は、北海道の建築シーンにおいて極めて意義深いステージであると改めて強調することができる。

7. 特別委員会

7. 1 事業主査連絡会（事業系 5 委員会の主査および事業系担当常議員）

事業系 5 委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中での可能な連携がとられ、活動に関し役員会への報告を行っている。本年度についても建築文化週間として北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施され印刷物や HP で公表されている。また、建築作品発表会は作品集の刊行、卒業設計審査委員会からは入選作品の HP 掲載がされるなど公表されている。

7. 2 総務委員会（委員長：森 傑、担当常議員、委員会開催数：1回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎、幹事：齊藤 雅也君、委員数：2名、メール等による情報交換を数回実施）

2018 年度は以下を実施した。

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なった。
- 2) ベント周知、報告等の Facebook ページの更新作業を行った。
- 3) 各委員会ページの名簿、活動内容について見直しを行った。

7. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：谷口 円、委員数：12名 委員会開催数：3回（メール開催 2回））

本年度は以下のイベントを後援し、パネラー等の派遣を行った。また、建築学会大会 PD において、支部の活動報告を行った。

➤ 日本建築仕上学会 女性ネットワークの会 5 周年記念講演会(札幌会場)

開催日 2018 年 8 月 24 日（金）

開催場所 札幌市男女共同参画センター

参加者 76 名

プログラム

①特別講演 「外部鉄骨防錆防食塗装技術の開発と東京スカイツリーへの適用」

講演者 1 奥田 章子(第 1 回～4 回講演会 総合司会)

株式会社大林組 技術研究所 生産技術研究部 主任研究員(課長)

日本建築仕上学会 女性ネットワークの会運営委員

②トークイベント 「働く女性がさらに輝く未来のために」

司会 熊野康子

パネラー

○谷口 円 地方独立行政法人北海道立総合研究機構

○阿部 忠 株式会社土屋ホーム 土屋ア-テクチュアカレッジ校長

○野坂のぞみ 丸北三建工業株式会社

(一社)建築設備技術者協会 北海道支部 設備女子会長

○谷口悠美子 大成建設株式会社札幌支店

○鳥潟ゆき 一二三北路株式会社

建設どさん娘の会

○八巻志帆 水白建築設計室(女性ネットワークの会運営委員)

北海道における女性活用、働き方改革、これから仕事と子育て、建築現場での仕事、後継者の育成等についてパネルディスカッションを行った。

▶ 建設業界で活躍する女性技術者とこれから働く学生のための座談会

開催日時 2018年12月21日(金)

開催場所 北海学園大学

参加者 35名

土木・建築を学ぶ女子学生と、現役で活躍する女性技術者が座談会を行い、建設業界での女性の働き方について意見交換を行った。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8. 1 講習会

(1) 本部主催講習会

期日	名称	会場	講師	参加者数
2018. 12. 10	2087年度支部共通事業 「鉄筋コンクリート構造計算規準」改定 講習会	北海道建設会館	西村康志郎 他4名	83名

(2) 支部委員会主催講習会(セミナー)

該当なし

8. 2 講演会

(1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 本部と支部共催

期日	名称	会場	講師	参加者数
2018. 11. 9	平成30年北海道胆振東部地震被害調査報告会	東京大学本郷キャンパス 武田ホール	挨拶: 飯場正樹、麻里哲広 講師: 高井伸雄他5名	170名

(3) 支部主催講演会

期日	名称	会場	講師	参加者数
2018. 6. 24	支部研究発表会特別企画記念古谷誠章会長特別講演会「信頼に応える建築界を目指して」	(地独) 北海道立総合機構建築研究本部1階多目的ホール	古谷 誠章	80名
10. 26	建築文化週間「第43回北海道建築賞表彰式・記念講演会」	北海道大学遠友学舎	小篠 隆生 他1名	70名
11. 30	第38回北海道建築作品発表会	北海道立近代美術館大講堂	作品数29点	300名
2. 21	「地震と建物の安全性」	北海道帯広工業高等学校	前田憲太郎	75名

2. 27	「建築環境工学の役割」	北海道釧路工業高等学校	桑原 浩平	71名
-------	-------------	-------------	-------	-----

(4) 支部委員会主催講演会

期日	名称	会場	講師	参加者数
2019. 5. 28 7. 23	「連続企画『私の職能』」講演会 (都市計画専門委員会)	札幌市立大学サテ ライトキャンパス	篠宮 章浩 窪田 映子	18名 17名
10. 27	建築文化週間「くしろ防災屋台村」(都市 防災専門委員会)	釧路市こども遊学 館	委員会委員	411名
10. 31	「実設計を通して構造設計者として考え たこと」講演会(構造専門委員会)	北海道大学工学部 B31 教室	佐分利和宏	88名
2019. 1. 25	公開研究会「北海道における庁舎建築、 その特性と行方を考える(建築計画専門 委員会)	北海道大学学術交 流会館	中館佳嗣 他 5名	75名
3. 6	第13回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs16(環境工学専門委員会)	札幌市立大学サテ ライトキャンパス	発表題数 32題	70名

(5) 他学協会と共に ((公社)日本コンクリート工学会北海道支部と共に)

開催日	名称	会場	講師	参加者数
2018. 12. 21	建設業界で活躍する女性技術者とこれか ら働く学生のための座談会	北海学園大学工学 部 3A 教室	谷口悠美子 他 4名	35名

8. 3 見学会

開催日	見学場所	解説者	参加者数	主催
2019. 9. 19	「NHK 新札幌放送会館」見学会	東 真治 大友 啓徳	21名	構造専門委員会 都市防災専門委員会
10. 14	「2018 これからの住まいと暮らし を考える住宅見学会」見学会	照井 康穂 小倉 寛征	32名	北方系住宅専門委員会 環境工学専門委員会 建築計画専門委員会
10. 14	「建築散歩—帯広の名建築を巡る」	西澤 岳夫 川村 善規	14名	歴史意匠専門委員会
12. 18	「NHK 新札幌放送会館」見学会	材料施工専 門委員会委員	19名	材料施工専門委員会

8. 4 展示会

開催日	名称	会場	参加者数
2018. 5. 17~18 6. 1~ 3 12. 10~13	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	131名 60名 120名
7. 3~12. 19	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	合計 418名

9. 本部関連事業・その他

9. 1 2018年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 支部共通事業設計競技審査委員会(主査:山田 良, 委員数:5名, 委員会開催数:1回)

委員会活動として設計競技審査会を2018年7月10日、午後6時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」であり、昨年度同様の11案の応募があった。5名の委員全員による議論および審査を経て3案を支部入選案として決定した。支部入選案3案は、残念ながら全国審査で入

選を果たせなかつた。また今後の応募数増加を期待したい。

支部審査員：

主査：山田 良

委員：赤坂 真一郎、久野 浩志、小西 彦仁、山之内 裕一

（2）審査講評

2018年度支部共通設計競技「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」審査評

・「この街を救う螢」

原 大介、山本 麗、簗島 福子（札幌市立大学）案

日々禁煙エリアが拡大している今日において、絶滅の危機に瀕するホタル（喫煙者）が持つ可能性を引き出し、喫煙によるコミュニケーション、タバコの灰の再利用、新たな産業の創出等により、喫煙者と非喫煙者が共に暮らせる環境共生型集合住宅を創ろうという意欲作。一見、現実味に欠けた作品に見えるが、実は物語や建物を構成する様々なエレメントについて、ラフではあるが一つずつ根拠を示し、全体を不思議な説得力で包んだ提案となっている。作者が持つ社会へのアイロニカルな視点やモノ・コトに対する独特的のバランス感覚、手描きのプレゼンテーションが、リアリティに欠ける部分を補い、よくできたSF映画のような魅力を持つ作品に昇華させている。

（文責：赤坂真一郎）

・「敷地を育てる家々」

岡本 大、野口 翔太、浅野 樹、小林 賛（室蘭工業大学大学院）案

打ち捨てられていた土地に人々が楽しく暮らすことによって価値が作り出され、それに魅力を感じた人々が移り住んでくる。新たな住人はさらなる価値を生み出し、価値創出の良き連鎖が繰り返される。そんな物語とそれを実現する建築の提案である。ここにあるのは画一的に開発された無機質な風景とは違い、小さな島の小さな村にあるような、人々の細やかな配慮と気づきがもたらすみずみずしいディテールに満ち溢れた風景が広がっていることだろう。その生活のみずみずしさこそが価値である。SNSによって拡散され、コミュニティを拡大し、経済圏へと踏み出せる可能性は十分にある。ここには絵空事には終わらないリアリティがある。

（文責：久野浩志）

・「結—海の布で町を縫う—」

向山 友記、河野 雅輝、原田 彩加、阿部 晃大、館 龍太郎（室蘭工業大学大学院）案

北海道沿岸とりわけ道東・釧路の基幹産業のひとつ昆布漁に着目した提案。昆布漁は、採取から加工まで手作業に負うため、働く姿と住まい、その両方が地域の季節の風物詩的風景となってきた。近年、当地の炭鉱産業の発達と市街地拡大、その後の人口減少により独特の風景が変貌し失われてきた。そうした現状を認識しつつ、あくまでも昆布漁の視点から、働く場を整理し、住まいを再構築する。具体的には空き家活用による作業場の確保、炭鉱鉄道利用による作業効率化など魅力がある。しかしながら、どこか空虚でスケール感の喪失した印象もある。市場経済としての食品の視点、その作業詳細に迫ることで、密度が提案に織り込まれる可能性を期待した。

（文責：山之内裕一）

9. 2 作品選集支部選考の実施

（1）作品選集支部選考部会活動報告（主査：田川 正毅：委員数 6名：委員会開催数 2回及び 現地審査）

2017年度の応募総数12作品に対し、2018年度は8作品となつた。内訳は住宅1作品、こども園1作品、放課後等デーサービス・運動施設1作品、高等学校1作品、病院1作品、事務所等2作品、宗教施設1作品である。6月18日の第1回選考部会で、応募ファイルをもとに議論と投票を重ねて5作品に絞り込み、3回に分けて委員で分担し現地審査を行なつた。8月7日に第2回選考部会を開催し、現地審査の内容をふまえて4作品を選考し、選評を付して本部へ推薦した。

支部審査員：

主査：田川 正毅

委員：小篠 隆生、菊田 弘輝、小谷 卓司、前田 芳伸、山田 良

（2）作品選集支部選考の結果

北海道支部応募作品数 8 点

支部選考通過（本部へ推薦）作品数 4 点

本部採用・作品選集掲載作品数 2 点

・訓子府町幼保連携型認定こども園 わくわく園 （作品選集掲載作品）

松谷悟詞：久米設計札幌支社

・幌東病院 （作品選集掲載作品）

加藤 誠：アトリエブンク

池村奈々：アトリエブンク

金箱温春：金箱構造設計事務所

9. 3 建築文化週間

建築文化週間 2018

①テーマ：「建築散歩—帯広の名建築を巡る」

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：2018. 10. 14 (土)

場 所：旧双葉幼稚園園舎、久呂無木（旧横瀬邸）外観、帯広電信通り

講 師：西澤岳夫、川村善規

参加対象：学会員、地域一般市民、市町村職員、建築技術者、学生

参加者：14 名

②テーマ：第 43 回（2018 年度）北海道建築賞表彰式・記念講演会

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：2018. 10. 26 (金)

講 師：小篠 隆生「東川小学校・地域交流センター」（第 43 回北海道建築賞）

松谷 悟詞「訓子府町幼保連携型認定こども園わくわく園」

（第 43 回北海道建築奨励賞）

場 所：北海道大学遠友学舎、

参加対象：学会員、一般市民、建築関係者、学生

参加者：70 名

③テーマ：「くしろ防災屋台村」

主 催：日本建築学会北海道支部

共 催：北海道釧路総合振興局

日 時：2018. 10. 27 (土)

場 所：釧路市子ども遊学館

参加対象：学会員、地域一般市町村民（親子）、行政職員、学生

参加者：411 名

10. 建築関連団体との活動

10. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8 名）

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。

10. 2 北海道建築設計会議 (幹事会開催数: 12回)

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、久新信一郎と中村英隆の2名を参加させた。幹事会においては、各団体の法人化等について情報交換や意見交換を行った。

11. 共催・後援

共 催

期 日	名 称	会 場	主 催
2018. 12. 24	建設業界で活躍する女性技術者とこれから働く学生のための座談会	北海学園大学工学部 3A 教室	(公社) 日本コンクリート工学会北海道支部

後 援

期 日	名 称	会 場	主 催
2018. 7. 27	「札幌創生スクエア」見学会	札幌創生スクエア	(公社) 空気調和・衛生工学会北海道支部
8. 7 応募締切	第43回北の住まい住宅設計コンペ KITA SUMA		(一社) 北海道建築士事務所協会
8. 24	日本建築仕上学会女性ネットワークの会 5周年記念講演会	札幌市男女共同参画センター	日本建築仕上学会
9. 27	「コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座 大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換」	室蘭工業大学教育・研究1号館	(公社) 日本コンクリート工学会北海道支部
10. 23	「建築鋼構造フィールド・スタディ」(北海道地区) (支部構造、材料施工専門委員会後援)	新日本製鉄(株)室蘭製鉄所、(株)日本製鋼所室蘭製鉄所	(一社) 日本鉄鋼連盟建築鋼構造研究ネットワーク幹事会
10. 26	「建築設備の凍害・雪対策・計画設計施工の実務知識」セミナー	かでる 2.7	(公社) 空気調和・衛生工学会北海道支部
10. 27	「公益社団法人日本都市計画学会北海道支部平成30年度研究発表会」	北海道大学工学部	(公社) 日本都市計画学会北海道支部
11. 16	「公益社団法人日本都市計画学会北海道支部平成30年度第1回都市地域セミナー」	北海道庁赤れんが庁舎2号会議室	(公社) 日本都市計画学会北海道支部
11. 16	「北海道における建設廃棄物のリサイクルを考える」	北海道大学フロンティア応用科学研究棟セミナー室	北海道大学大学院工学研究院建築環境学研究室
12. 4	「ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の最前線」	北海道大学フロンティア応用科学研究棟レクチャーホール	(公社) 空気調和・衛生工学会北海道支部
2019. 1. 28	「地球に適応するヒト・建築・都市環境とは何か」	札幌市立大学サテライトキャンパス	(公社) 空気調和・衛生工学会北海道支部
2. 16	「第29回旭川建築作品発表会」	旭川市科学館「サイパル」	旭川まちなみみデザイン推進委員会
2. 28	「公益社団法人日本都市計画学会北海道支部平成30年度第2回都市地域セミナー」	TKP 札幌ビジネスセンター	(公社) 日本都市計画学会北海道支部
5. 16 登録締切	「第10回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ」		(公社) 日本建築家協会北海道支部

II 2018年度収支決算報告

2018年度 貸借対照表

2019年 3月31日現在			
科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	2,783,636	2,594,697	188,939
未収金	0	0	0
前払金	168,684	168,684	0
仮払金	27,660	27,672	△12
流動資産合計	2,979,980	2,791,053	188,927
2 固定資産			
(1) 基本財産	0	0	0
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
学術振興基金引当資産	4,670,000	4,670,000	0
災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0
支部基金引当資産	2,610,000	2,610,000	0
退職給付引当資産	1,080,000	1,020,000	60,000
特定資産合計	10,260,000	10,200,000	60,000
(3) その他の固定資産			
敷金	561,550	561,550	0
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0
固定資産合計	10,821,550	10,761,550	60,000
資産の部合計	13,801,530	13,552,603	248,927
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	0	0	0
前受金	14,000	12,000	2,000
預り金	20,353	20,269	84
仮受金	582,318	582,309	9
賞与引当金	0	0	0
流動負債合計	616,671	614,578	2,093
2 固定負債			
退職給付引当金	1,080,000	1,020,000	60,000
固定負債合計	1,080,000	1,020,000	60,000
負債の部合計	1,696,671	1,634,578	62,093
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産	12,104,859	11,918,025	186,834
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(9,180,000)	(9,180,000)	(0)
正味財産合計	12,104,859	11,918,025	186,834
負債及び正味財産合計	13,801,530	13,552,603	248,927

2018 年度 正味財産増減計算書

科目名称	当年度	前年度	増減	2018年 4月 1日から 2019年 3月31日まで	
				科目名称	当年度
I. 一般正味財産増減の部					
1. 他会計振替額					
交付金収入	(6,904,000)	(6,671,500)	(232,500)		
支部費	1,737,000	1,711,000	26,000		
支部経営助成費	1,950,000	1,747,500	202,500		
事業促進費	300,000	300,000	0		
支部研究補助費	200,000	200,000	0		
教育文化事業交付金	546,000	542,000	4,000		
大会交付金	0	0	0		
支部事務費	300,000	300,000	0		
支部事務所費	1,871,000	1,871,000	0		
他会計からの振替額計	6,904,000	6,671,500	232,500		
2. 経常増減の部					
[1] 経常収益					
(1) 実施事業会計	(205,000)	(406,512)	(△201,512)		
表彰・顕彰事業	(205,000)	(406,512)	(△201,512)		
表彰関係	205,000	406,512	△201,512		
(2) その他会計	(2,843,123)	(2,846,197)	(△3,074)		
研究集会事業	(2,343,123)	(2,346,197)	(△3,074)		
支部研究発表会	1,227,287	1,087,197	140,090		
建築作品発表会	1,115,836	1,259,000	△143,164		
過年度研究集会事業	0	0	0		
委託事業	(500,000)	(500,000)	(0)		
調査研究委託事業	500,000	500,000	0		
(3) 法人会計	(160,942)	(183,790)	(△22,848)		
特定資産運用益	(1,401)	(1,752)	(△351)		
特定資産受取利息	1,401	1,752	△351		
雑収益	(159,541)	(182,038)	(△22,497)		
受取利息	41	38	3		
雑収益	159,500	182,000	△22,500		
[2] 経常費用					
(1) 実施事業会計	(1,375,247)	(1,429,902)	(△54,655)		
調査研究事業	(461,651)	(486,442)	(△24,791)		
調査研究事業	461,651	486,442	△24,791		
表彰・顕彰事業	(610,896)	(612,438)	(△1,542)		
表彰関係	605,850	608,442	△2,592		
設計競技	5,046	3,996	1,050		
社会対応事業	(302,700)	(331,022)	(△28,322)		
文化事業	281,843	310,103	△28,360		
展示会事業	21,157	20,919	238		
(2) その他会計	(2,466,732)	(2,521,144)	(△54,412)		
研究集会事業	(2,041,732)	(2,096,144)	(△54,412)		
支部研究発表会	802,646	778,418	24,228		
建築作品発表会	1,239,086	1,317,726	△78,640		
委託事業	(425,000)	(425,000)	(0)		
調査研究委託事業	425,000	425,000	0		
(3) 法人会計	(6,084,252)	(6,071,815)	(12,437)		
支部運営	(243,704)	(257,344)	(△13,640)		
支部総会	215,688	232,072	△16,384		
支部役員会	13,716	25,272	△11,556		
選舉管理委員会	0	0	0		
その他運営費	14,300	0	14,300		
支那事務運営	(5,840,548)	(5,814,471)	(26,077)		
給与手当	2,130,240	2,129,014	1,226		
退職給付費用	60,000	60,000	0		
法定福利厚生費	370,672	369,250	1,422		
福利厚生費	24,375	23,295	1,080		
通勤手当	176,040	176,040	0		
旅費交通費	22,980	20,300	2,680		
通信回線費	100,166	113,728	△13,562		
差送運輸費	16,225	38,335	△22,110		
消耗品費	32,847	40,433	△7,586		
印刷費	99,423	45,439	53,984		
支払手数料	31,752	26,784	4,968		
賃貸料	144,720	142,560	2,160		
地代家賃	2,024,208	2,024,208	0		
水道光熱費	555,444	536,177	19,267		
雜費その他	51,456	68,908	△17,452		
経常費用計	9,926,231	10,022,861	△96,630		
当期経常増減額	△6,717,166	△6,586,362	△130,804		
当期一般正味財産増減額	186,834	85,138	101,696		
一般正味財産期首残高	11,918,025	11,832,887	85,138		
一般正味財産期末残高	12,104,859	11,918,025	186,834		
II. 指定正味財産増減の部					
指定正味財産期首残高	(0)	(0)	(0)		
III. 正味財産期末残高	12,104,859	11,918,025	186,834		

2018年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2018年4月1日～2019年3月31日

一般社団法人 日本建築学会 北海道支部

科 目	予算額	決算額	差異
I. 一般正味財産の部			
1. 他会計振替額			
交付金収入	(6,771,000)	(6,904,000)	(▲ 133,000)
支部費収入	1,645,000	1,737,000	▲ 92,000
経営助成費収入	1,920,000	1,950,000	▲ 30,000
事業促進費収入	300,000	300,000	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0
教育文化事業交付金収入	535,000	546,000	▲ 11,000
支部事務費収入	300,000	300,000	0
支部事務所費収入	1,871,000	1,871,000	0
他会計からの振替額計	6,771,000	6,904,000	▲ 133,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(205,000)	(▲30,000)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(205,000)	(▲30,000)
表彰関係	175,000	205,000	▲ 30,000
その他会計	(2,160,000)	(2,843,123)	(▲683,123)
研究集会事業	(2,160,000)	(2,343,123)	(▲183,123)
支部研究発表会	1,070,000	1,227,287	▲157,287
建築作品発表会	1,070,000	1,115,836	▲45,836
過年度研究集会事業	20,000	0	20,000
委託事業	(0)	(500,000)	(▲500,000)
委託調査研究事業	0	500,000	▲500,000
法人会計	(203,000)	(160,942)	(42,058)
特定資産運用益	2,000	1,401	599
特定資産受取利息	2,000	1,401	599
雑収益	(201,000)	(159,541)	(41,459)
受取利息	1,000	41	959
雑収益	200,000	159,500	40,500
経常収益計	2,538,000	3,209,065	▲671,065
実施事業会計	(1,800,000)	(1,375,247)	(424,753)
調査研究事業	(650,000)	(461,651)	(188,349)
調査研究事業	650,000	461,651	188,349
表彰・顕彰事業	(760,000)	(610,896)	(149,104)
表彰関係	720,000	605,850	114,150
設計競技	40,000	5,046	34,954
社会対応事業	(390,000)	(302,700)	(87,300)
文化事業	360,000	281,543	78,457
展示会事業	30,000	21,157	8,843
その他会計	(2,035,000)	(2,466,732)	(▲431,732)
研究集会事業	(2,035,000)	(2,041,732)	(▲6,732)
支部研究発表会	885,000	802,646	82,354
建築作品発表会	1,150,000	1,239,086	▲ 89,086
委託事業	(0)	(425,000)	(▲425,000)
委託調査研究事業	0	425,000	▲425,000
法人会計	(6,333,000)	(6,084,252)	(248,748)
支部運営	(310,000)	(243,704)	(66,296)

科 目	予算額	決算額	差異
支部総会	250,000	215,688	34,312
支部役員会	40,000	13,716	26,284
選挙管理委員会	2,000	0	2,000
その他の運営費	18,000	14,300	3,700
支部運営(非課税)	(6,023,000)	(5,840,548)	(182,452)
給与手当	2,130,000	2,130,240	▲ 240
退職給付費用	60,000	60,000	0
法定福利費	360,000	370,672	▲ 10,672
福利厚生費	30,000	24,375	5,625
通勤手当	176,000	176,040	▲ 40
旅費交通費	15,000	22,980	▲7,980
通信回線費	125,000	100,166	24,834
発送運搬費	30,000	16,225	13,775
消耗品費	120,000	32,847	87,153
印刷費	65,000	99,423	▲ 34,423
支払手数料	30,000	31,752	▲ 1,752
賃借料	145,000	144,720	280
地代家賃	2,024,000	2,024,208	▲ 208
水道光熱費	648,000	555,444	92,556
雑費その他	65,000	51,456	13,544
経常費用計	10,168,000	9,926,231	241,769
当期経常増減額	▲859,000	186,834	▲1,045,834
当期一般正味財産増減額	▲859,000	186,834	▲1,045,834
一般正味財産期首残高	11,225,000	11,918,025	▲693,025
一般正味財産期末残高	10,366,000	12,104,859	▲1,738,859
指定正味財産期末残高			
正味財産期末残高	10,366,000	12,104,859	▲1,738,859

監査報告

2018 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2019 年 4 月 23 日

支部監事

支部監事

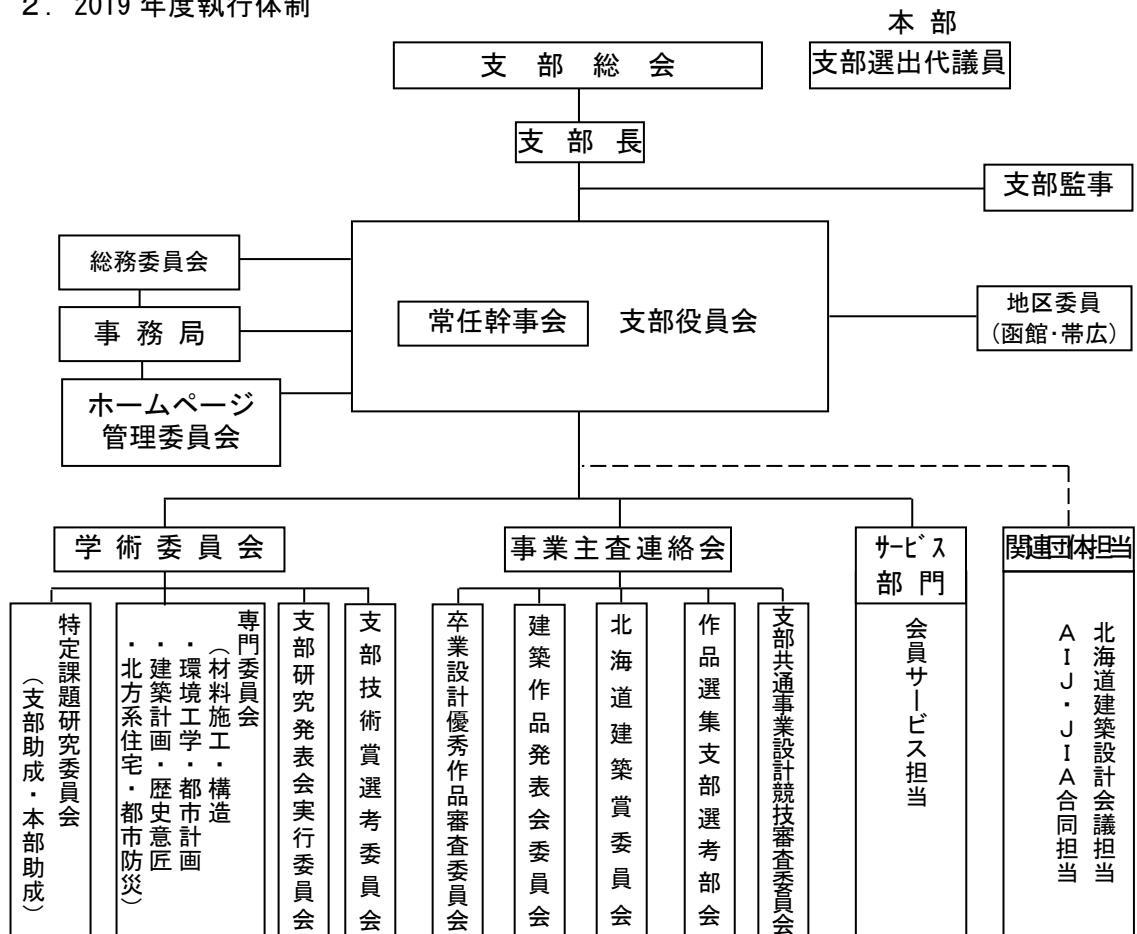
III 2019年度事業計画方針案

1. 活動方針

例年行われている事業（支部運営の諸会合の開催、受託研究の受託、支部研究発表会の実施、表彰、北海道建築作品発表会の実施、特別委員会、講習会・シンポジウム等の開催、本部関連事業・その他、建築関連団体との活動、共催・講演など）を行う。これらの事業を行うなかで、支部活動・研究活動の活性化、若手や女性の活用・ネットワーク化などを考慮して活動を進める。

支部活動の維持・活性化のために財政の強化に関する継続的に検討する。また、支部事務所ビルおよび周辺の再開発計画等に対する情報収集などを行い、将来的な支部事務所のあり方について検討する。

2. 2019年度執行体制



支部長(2018.6.1~2020.5.31)

千歩 修 北海道大学教授

新任常議員(2019.6.1~2021.5.31)

石井 旭	地方独立行政法人北海道総合研究機構主査
植松 武是	北海学園大学教授
※高井 伸雄	北海道大学准教授
深瀬 孝之	伊藤組土建㈱建築部部長
堀尾 浩	堀尾浩建築設計事務所代表
松岡 佳秀	北海道建設部建設政策局建設政策課主査
※山田 航司	清水建設㈱北海道支店設計部グループ長

(※印 常任幹事)

新任常議員は、支部役員選挙開票(2019年4月9日)により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

☆羽石 章夫, 石塚 和彦, 久新信一郎, 中村 英隆, 横尾 淳一

留任常議員(2018.6.1~2020.5.31)

※石塚 和彦	石塚和彦アトリエ一級建築士事務所代表
海藤 裕司	(㈱山下設計北海道支社設計監理部[プロジェクト担当]部長
中村 英隆	大成建設㈱札幌支店建築部作業所長
※三浦 誠	北海道職能能力開発大学校建築科准教授
山本 悅徳	北海道札幌工業高等学校建築科教諭
横尾 淳一	(㈱竹中工務店北海道支店設計部設計グループ課長
吉津 利洋	北海道科学大学建築学科准教授

(※印 常任幹事)

新任代議員 (2018.4.1~2020.3.31)

菅沼 秀樹	(㈱アトリエブンク代表取締役社長
福島 明	北海道科学大学教授

(2019年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出)

留任代議員 (2018.4.1~2020.3.31)

大條 雅昭	北海道建設部まちづくり局都市計画 新幹線基盤支援担当課長
田沼 吉伸	北海道科学大学教授

新任支部監事 (2019.6.1~2020.5.31)

佐藤 孝	元北海道科学大学教授
(2019年4月の支部役員会で選出)	

留任支部監事 (2018.6.1~2020.5.31)

下村 憲一	北海道科学大学客員教授
-------	-------------

地区委員 (2019.6.1~2020.5.31)

帯広地区委員	小野寺 一彦	設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員	山本 真也	元函館市教育委員会教育長

3. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2019年5月17日(金)
会場 北海道建設会館

◆ 支部役員会 (複数回)

◆ 常任幹事会 (複数回)

◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4. 1 学術委員会 (主査：岡本 浩一, 委員数：14名, 委員会開催予定数：4回)

○活動方針

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

○主な活動事業、時期

支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認（技術パネル展の企画・運営）、特定課題研究（本部・支部助成）の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。

第1回9月、第2回11月、第3回1月、第4回3月の開催を予定している。

4. 2 専門委員会

◆ 材料施工専門委員会 (主査：杉山 雅, 委員数：21名, 委員会開催数：3回, 見学会予定1回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会（話題提供）
- ・ 見学会の開催

◆ 構造専門委員会 (主査：植松 武是, 委員数：22名, 委員会開催予定数：2回)

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 構成委員数：22名
- 2) 委員会は、2回（6月、12月）、幹事会は2回（9月、3月）の開催を予定し、必要に応じてメール会議を開く。
- 3) 講演会・講習会は、2回（随時）開催する。
- 4) 見学会は、建築物（施工中も含む）等を対象に2回程度（随時）実施する。
- 5) 勉強会は、委員会開催時に構造に関わらず幅広い分野を対象に行う。

◆ 環境工学専門委員会 (主査：桑原 浩平, 委員数：15名, 委員会開催予定数：3回)

- 1) 学位を取得した若手研究者等の研究発表の機会を設け、最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築や最新の設備技術等を導入した建築の見学会を、他委員会と連携して開催する。

- 3) 第14回環境工学系・卒業論文発表会(EGGs'19)の開催を支援する。
- 4) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催地区講演会ほか、本委員会の関係組織が主催する講演会、セミナー等を支援する。

◆ **建築計画専門委員会** (主査: 谷口 尚弘, 委員数: 11名, 委員会開催予定数: 2回)

構成委員数11名、委員会開催数2回程度、見学会なども2回程度行う。北海道の建築計画(学)分野にかかる新しい課題の把握、加えて精力的に社会貢献活動の展開を目指す。4年ぶりに主査が替わるため、新たに北海道らしい建築計画的課題を探索しその解決方策などを考察する。またこれらの成果は、公開研究会として積極的に公に開いていきたい。

◆ **都市計画専門委員会** (主査: 岡本 浩一, 委員数: 12名, 委員会開催予定数: 5回)

人口減少・超高齢・少子社会の到来および公民間わず各種ストックの老朽化は、都市の健全さの維持に大きな懸念を生じさせている。建築には、都市や地域の一部であると認識した上で、その“在り方”を問い合わせることが求められる。変化する社会のなかで、建築と都市・地域との関係を改めて考える機会を、学生や若手技術者も交えた形で設けていく。

平成28年度から継続中の連続企画「わたしの職能」について、新任委員により年度当初に実施する(4月or5月予定)。委員会は奇数月第3火曜日を軸に調整し、サロン形式により適宜ゲスト枠も設けて開催する。産官学各分野から委員が所属する当委員会の特性を活かし、各委員の業務等について情報交換するとともに、知恵出しや連携・協働の可能性も模索する。加えて、それぞれに活躍されているフィールドに訪れての意見交換も実施を検討する。

◆ **歴史意匠専門委員会** (主査: 西澤 岳夫, 委員数: 18名, 委員会開催予定数: 4回)

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として委託研究を含め社会や住民に貢献する体制を整備する。具体的には、建築文化週間事業として、見学会「石炭のまち三笠の足跡を巡る」を10月12日を開催する予定である。

◆ **北方系住宅専門委員会** (主査: 立松 宏一, 委員数: 11名, 委員会開催予定数: 2回)

新たな地域住宅像形成に向けた議論や、最新の住宅事情に関する意見交換、学会の事業への協力、参画の検討ため、年2回の委員会を開催する。また、新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会(第12回)を実施する。住宅見学会は、意見交換の場を充実させ、参加者それぞれにとって意義を感じてもらえる開催方法を検討する。

◆ **都市防災専門委員会** (主査: 麻里 哲広, 委員数: 16名, 委員会開催予定数: 2回)

■活動方針

委員相互の連携、防災関係機関との連携、他学協会との連携、地域との連携を強化するとともに、次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。

■主な活動事業

- 1) H30年北海道胆振東部地震の被害調査、および調査報告書刊行へ向けての活動。
- 2) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」の実施(2019年10月を予定)。
- 3) 構造専門委員会等との共催による見学会、講習会の実施。
- 4) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
- 5) 各種防災イベントへの協力

4. 3 特定課題研究委員会

該当なし

4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2019 年度より)

- ◆ 北海道沿岸部戦争遺跡調査研究委員会（主査：西澤 岳夫、委員数：8名、委員会開催予定数：複数回）

北海道沿岸部に現存する戦争遺跡、ならびに関連資料に関する調査研究活動を行う。

5. 支部研究発表会

5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：千葉 隆弘、幹事：羽深 久夫、委員数 17名、委員会開催予定回数：6回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 建築学会 HP 論文検索システムに対応するための電子投稿時記載事項の改善
- 4) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 5) 特別企画の実施および技術パネル展開催の支援
- 6) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 7) 支部研究報告集（冊子および CD-ROM）の作成および発行
- 8) 支部研究発表会の実施
- 9) 優秀講演奨励賞の選定・授与

支部研究発表会の実施

第 92 回北海道支部研究発表会

日時：2019 年 6 月 29 日（土）一般研究発表会、特別企画、技術パネル展

場所：札幌市立大学 芸術の森キャンパス（札幌市）

懇親会：札幌市内で開催される特別企画終了後に開催

原稿提出締切：2018 年 4 月 11 日（木）17:00（電子投稿受付）

発表登録システム HP : http://regist.hokkaido.seikyou.jp/aij/entry/thesis_entry.php

支部研究報告集（冊子および CD-ROM）No.92 を発行

6. 表彰

6. 1 北海道建築賞（主査：加藤 誠、委員数：7名、委員会開催予定数：複数回）

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の 3 つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

（2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第 44 回北海道建築賞の応募期間：2019 年 4 月 15 日（月）～5 月 15 日（水）
- 2) 審査期間：5 月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6 月中旬（書類審査）
～7・8 月（現地審査）～9 月上旬（最終選考）
- 3) 結果発表：9 月下旬（常議員会での承認後）
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会：10 月 25 日（金）予定

（3）委員構成

新規の委員 5 名、再任 1 名、留任 1 名の計 7 名で委員会運営を行う。

加藤誠（室蘭工業大学、アトリエブンク：主査）、他 6 名。

6. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）（主査：菅原 秀見、委員数：6 名）

委員会開催予定数:1回)

(1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工業高校の優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育および技術の向上を図る。

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2019年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2018年度と同様、2019年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6. 3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7. 1 北海道建築作品発表会委員会（主査：小澤 丈夫、委員数：5名、実行委員数：11名委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2019年度は、建築作品発表会が第39回を迎える。昨年に引き続き充実した発表の場にしたい。また、発表会の後半に企画しているフォーラムを発展させながら、さらに活発な議論が生じるような場を検討して行きたい。建築作品発表会の過去約40年は北海道建築の質の向上に積極的に寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、今後の発表会への橋渡しをすべく39年目の発表会用プログラムを検討していきたい。尚、例年通り建築作品発表会作品集を発行する予定である。

7. 2 第39回北海道建築作品発表会の実施予定

第39回北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬

作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬

作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員、必要に応じて開催）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中で、適宜事業を把握し、役員会へ報告提案をおこなう。それぞれの事業は印刷物やHPで公表するとともに支部事業の活性化を検討する。

8. 2 総務委員会（委員長：森 傑、担当常議員、委員会開催予定数：1回）

委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2019年度）

委員長：森 傑 北海道大学

委員： 担当常議員

8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎、委員数：2名、必要に応じて開催）

2019年度は以下の活動を予定している。

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) Facebookページへのイベント周知、報告を行う。
- 3) 会議資料等のアーカイブ手法の検討。

8. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子café）（主査：谷口 圓、委員数：12名 委員会開催予定数：複数回）

建築女子café（交流イベント（学生・社会人））の企画立案を行う。

- ・支部女性会員の会委員に加え、本活動に興味のある若手社会人、学生を交えた交流を検討する
 - ・建築分野の女性活用の先進性を生かしたネットワークのありかたについて、若手、学生も交え意見交換を継続する
 - ・他団体との共同により女性交流イベントを行う

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9. 1 本部主催講習会

2019年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10. 1 2019年度支部共通事業設計競技の実施（主査：山田 良、委員数：5名、委員会開催予定数：1回）

2019年度の課題は「ダンチを再考する」と決定され、7月中に支部審査を1回行う予定である。2018年度の応募総数は10案で、前回応募数と同数であった。近年は道外からの応募も見受けられる。今後の応募数増加を期待したい。

10. 2 作品選集支部選考部会（主査：小篠 隆生、委員数：6名、委員会開催予定数：2回及び現地審査）

これまでの支部選考部会と同様に、応募ファイルに基づく1次審査、さらに現地審査をふまえての2次審査を行ない、支部として作品選集委員会に推薦する作品を選出する。作品選集の主旨にかなう建築を、意匠・環境・構造など各分野の委員相互の十分な議論を通して選ぶとともに、北海道の価値ある建築が作品選集の掲載に至るよう評価を行い、本部へ推薦するものとする。

10. 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通じて地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「くしろ防災屋台村」（都市防災専門委員会）
2. 「石炭のまち三笠の足跡を巡る」（歴史意匠専門委員会）
3. 第44回北海道建築賞表彰式・記念講演会（支部主催）

11. 建築関連団体との活動

11. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名、委員会開催予定数：1回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

11. 2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

IV 2019年度収支予算案

2019年度 予算書（正味財産増減計算ベース） 北海道支部

科 目	2019年度予算額	2018年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(6,781,000)	(6,771,000)	(10,000)
支部費	1,633,000	1,645,000	▲ 12,000
経営助成費	1,920,000	1,920,000	0
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0
建築文化事業費	540,000	535,000	5,000
大会交付金	—	—	0
支部事務費	300,000	300,000	0
支部事務所費	1,888,000	1,871,000	17,000
他会計からの振替額計 (A)	6,781,000	6,771,000	10,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係事業	175,000	175,000	0
その他事業会計	(2,160,000)	(2,160,000)	(0)
研究集会事業	(2,160,000)	(2,160,000)	(0)
支部研究発表会	1,070,000	1,070,000	0
建築作品発表会	1,070,000	1,070,000	0
過年度研究集会	20,000	20,000	0
法人会計	(178,000)	(203,000)	(▲25,000)
特定資産運用益	(2,000)	(2,000)	(0)
特定資産運用益	2,000	2,000	0
雑収益	(176,000)	(201,000)	(▲25,000)
受取利息	1,000	1,000	0
雑収益その他	175,000	200,000	▲25,000
経常収益計 (B)	2,513,000	2,538,000	▲25,000
[経常費用]			
実施事業会計	(1,810,000)	(1,800,000)	(10,000)
調査研究事業	(650,000)	(650,000)	(0)
調査研究事業	650,000	650,000	0
表彰・顕彰事業	(760,000)	(760,000)	(0)
表彰関係事業	720,000	720,000	0
設計競技事業	40,000	40,000	0
社会対応事業	(400,000)	(390,000)	(10,000)
文化事業費	370,000	360,000	10,000
展示事業費	30,000	30,000	0
その他事業会計	(2,035,000)	(2,035,000)	(0)
研究集会事業	(2,035,000)	(2,035,000)	(0)
支部研究発表会	885,000	885,000	0
建築作品発表会	1,150,000	1,150,000	0
法人会計	(6,293,000)	(6,333,000)	(▲40,000)
支部運営	(310,000)	(310,000)	(0)
総会	250,000	250,000	0
常議員会	40,000	40,000	0
その他運営費	20,000	20,000	0
事務運営	(5,983,000)	(6,023,000)	(▲40,000)
給与手当	2,130,000	2,130,000	0
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	0
法定福利厚生費	360,000	360,000	0
福利厚生費	30,000	30,000	0
通勤手当	176,000	176,000	0

科 目	2019年度予算額	2018年度予算額	前年度比 (増 減)
旅費・交通費	15,000	15,000	0
通信・回線費	125,000	125,000	0
発送・運搬費	40,000	30,000	10,000
消耗品費	80,000	120,000	▲40,000
印刷費	55,000	65,000	▲10,000
会議費	15,000	15,000	0
地代・家賃	2,024,000	2,024,000	0
水道光熱費	648,000	648,000	0
支払手数料	30,000	30,000	0
賃借料	145,000	145,000	0
雑費その他	50,000	50,000	0
経常費用計 (C)	10,138,000	10,168,000	▲30,000
当期経常増減額 (A) + (B) - (C)	▲844,000	▲859,000	15,000
当期一般正味財産増減額	▲844,000	▲859,000	15,000
一般正味財産期首残高	11,798,000	11,225,000	573,000
一般正味財産期末残高	10,954,000	10,366,000	588,000
指定正味財産期末残高	-	-	-
正味財産期末残高	10,954,000	10,366,000	588,000

＜注記＞

2019年度の「一般正味財産期首残高」は、2018年10月末時点における2018年度決算見込数値による

支部特定資産積立と取崩の実績と予定

(2018年度実績 2019年度予定)

	2018年度 特定資産積立・取崩 実績				2019年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2018年度 期首残高	2018年度 積立	2018年度 取崩	2018年度 期末残高	2019年度積立	2019年度取崩	2019年度末残高
学術振興基金引当資産	4,670,000円	0円	0	4,670,000円	0円	0円	4,670,000円
支部基金引当資産	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円
退職給付引当資産	1,020,000円	60,000円	0円	1,080,000円	60,000円	0円	1,140,000円
合計	10,200,000円	60,000円	0	10,260,000円	60,000円	0円	10,320,000円

【2018年度 積立・取崩(実績)】

学術振興基金引当資産

特定課題研究委員会のための取り崩しなし。

退職給付引当資産

2018年度職員退職給付引当金として60,000円を積立。

【2019年度 積立・取崩予定】

学術振興基金引当資産

特定課題研究委員会のための取り崩し予定なし。

退職給付引当資産

2019年度職員退職給付引当金として60,000円を積立予定。

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿

2019年3月末現在

◆法人正会員

会員社名・団体名

会員社名・団体名

伊藤組土建(株)	戸田建設(株)札幌支店
岩倉建設(株)	(株)巴コ-ボレーション
岩田地崎建設(株)	日鐵住金セメント(株)
(株)岡田設計	日本デ-タサービス(株)
亀田工業(株)	(株)日本設計札幌支社
鹿島建設(株)	日本防水総業
(株)ホ-ム企画センター 総務部	(株)三菱地所設計
(株)熊谷組	(株)アトリエアクト
(株)北海道日建設計	北農設計センター
丸彦渡辺建設(株)	(株)中原建築設計事務所
大成建設(株)札幌支店	(株)北方住文化研究所
宮坂建設工業(株)	(株)ドーコン
(株)竹中工務店北海道支店	北海道建築設計監理(株)
五洋建設(株) 札幌支店	北海道コンクリート工業(株)
東急建設(株) 札幌支店	清水建設(株)北海道支店
(株)久米設計札幌支社	(株)田中組
(株)サンキットエーイー	(株)三暁プレコンシステム
(株)コバエンジニア	(株)北海道不二サッシ
(株)土屋ホーム	(株)アトリエブンク
(株)田辺構造設計	(一財)北海道建築指導センター
	(株)フィルド

◆賛助会員

会員社名・団体名

北海道電力(株)
星槎道都大学附属図書情報館
北海学園大学附属図書館
(株)総合資格



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765
E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp
<http://hokkaido.aij.or.jp/wp/>